

令和6年11月8日

伊豆市長 菊地 豊 様

伊豆市監査委員 渡邊 光由

伊豆市監査委員 小長谷 順



定期監査の結果について（報告）

地方自治法第 199 条第 4 項の規定に基づき定期監査を実施したので、その結果を同条第 9 項の規定により、次のとおり報告します。

記

- 1 監査の期日 令和6年10月29日（火）
- 2 監査の対象 総務部：資産経営課、土肥支所、天城湯ヶ島支所、中伊豆支所
危機管理課
- 3 監査の方法：提出された監査資料等に基づき、各担当課及び各支所の説明を受けた後、事情聴取並びに関係書類の審査を行った。
- 4 監査の結果：監査を実施した範囲における事務事業においては、適正に処理されているものと認められた。
- 5 監査の概要及び意見：対象部課の監査結果の概要及び意見は、次のとおりである。

【危機管理課】

- ① 消防施設・消防設備の管理状況は、消防団に関して、天城湯ヶ島方面隊は4分団から2分団に再編成しているが、中伊豆方面隊と土肥方面隊も現在のそれぞれ3分団から1分団に、令和7年4月の統合を目指し準備を進めている。消防団員については、減少を補完するため、機能別消防団員として60歳未満で消防団経験のある54人が団員となっており、創設した昨年度より11人増となっている。令和6年4月現在の消防団員数は、機能別消防団員を合わせて352人で、昨年度より12人減少した。平日昼間の消防団員は、仕事の都合などで必要な人数確保が困難な場合が多いため、昨年度から活動している市役所消防隊が出動し、初期消火活動を行っている。

地域の自主防災と消防団との係わりは、消火栓の確認で、消防団が点検済みシールを貼る際自主防と一緒にやっているようだが、係わりが少ないようなので、防災訓練の折などもっと関わるようにしていただき、災害時の確認や対応などがスムーズに行えるようにしていた

だきたい。また、各分団等が管理している消防車などの車検管理については、厳重なチェックができるようになっていたことが確認できたが、くれぐれも車検・点検漏れのないようにお願いします。

消火栓については、水漏れしている箇所が多くあるようなので、上下水道課と協議し、改善を進めていただきたい。

- ② 松原公園津波避難複合施設は、土肥地区の松原公園内に完成し、本年7月に運用が始まった。夏季の入り込み客数は確認できたが、取材対応ではメディアの取り上げ状況も良好であり、まだ認知度は低い。今後は利用者の増加が見込めると想定している。指定管理の事業者も施設内のマンネリ化を防ぎ、利用者の増加につながるよう工夫していくことを検討しているとのこと。視察対応においては、運用開始をした7月から10月までに8件の視察を受け、今後も多くの視察を受け入れる予定となっている。

今後は、さらに利用客が増加していくと思われるが、リニューアルした松原公園と合わせ、指定管理者の運用が軌道に乗ることを期待します。

- ③ (仮称)危機管理センター整備状況は、現在、基礎躯体工事を行っている。引き続き工事を進め、令和7年7月末に完成予定となっており、令和8年4月に運用を開始し、危機管理課は本庁舎から引っ越すこととなる。

防災に関しては、本年1月1日に発生した能登半島地震の際、地震発生後すぐに役所へ登庁できたのは市長を含めた職員が10名程度で、避難所の開設ができなかった自治体があったとのことなので、伊豆市では行政の指令を待つことなく、独自に地域でも開設できるように体制を整えたいとのこと。また、避難所におけるトイレ問題は命や人間の尊厳に関わる問題であり、安心できる排泄環境が求められる。このことを踏まえて、12月に実施予定の防災訓練時には、簡易トイレの組み立て方や携帯トイレの使い方などを主に行うとのこと、被災時における行動にその効果が現れるよう期待します。

同報無線から市役所と連絡をやり取りできる機能について、知らない市民が多いと思われる、実際に使用できるか疑問である。できるだけ多くの市民に使用できる場所と使い方を周知していただくようお願いします。

【総務部】

(1) 土肥支所

支所業務及び施設管理の状況は、各支所共通の窓口業務と、土肥支所では白ビワ狩り、海水浴場管理など、他の支所と異なる業務も行っている。松原公園管理は、観光商工課に所管を移行し土肥支所の管理ではなくなった。庁舎管理では、3階と4階の空調機更新を行い、昨年度からの更新で各階の空調機の更新が済んだ。その他、土肥地区にある社会福祉施設管理、公害対策事業及び小峰処分場管理事業、花木園施設管理を行っている。花木園の借地を一部購入できたが、該当地のすべて購入には至っていない。海水浴場は、今夏は猛暑だったことや、南海トラフ地震臨時情報が発表された影響があり、来場者が前年より減少したが、海難事故はなかった。臨時情報の影響では、市外では海水浴場を閉鎖したところもあったが、土肥海水浴場は、テラッセ オレンジ トイの運用開始により、注意を図りながら運営を継続

することができた。

(2) 天城湯ヶ島支所

支所業務及び施設管理の状況は、各支所共通の窓口業務と、天城湯ヶ島コミュニティセンター・子育て支援センター・市民活動センター・天城図書館・多目的広場の施設管理を行っている。本年度は、市民活動センターとしろばんば公園の連絡通路工事を実施予定だが、現在は地域づくり協議会が担っており、そちらの終了後となるため、その後の実施となる予定。

天城湯ヶ島支所は、湯ヶ島財産区と持越・市山・門野原・吉奈・月ヶ瀬・田沢・矢熊の各財産区、合わせて8地区の財産区会計を管理している。湯ヶ島財産区は単独議会を持っているが、7地区の財産区とともに財産区会計は法律上公金扱いであり、役所の管理となっている。各地区が旧村の合併時に財産を地区で所有していたいとの希望で、以来現在に至るが、地域が財産を市に寄付することや、財産を管理するための地縁団体の設立等に至らないため、管理を継続せざるを得ない状況となっている。

(3) 中伊豆支所

支所業務及び施設管理の状況は、各支所共通の窓口業務と、中伊豆支所庁舎及び周辺の管理を行っている。中伊豆支所は、建設部・教育部があり、支所周辺清掃の際は、各部から職員の協力を得て実施している。部局職員が夜間残業で深夜になることもあり、宿直業務を委託契約している。庁舎建設から20年以上が経過し、空調設備の老朽化がみられ、対策を検討している。庁舎管理の清掃や設備点検などは、資産経営課が担当する包括施設管理となっている。

各支所とも、庁舎及び周辺の管理を行っている。土肥支所は社会福祉施設の管理をしたり、天城湯ヶ島支所は財産区の管理をしていたりするなど、少ない職員で様々な対応をしていることを認知した。湯ヶ島財産区は独自議会を持つ財産区として温泉管理をしており、温泉掘削について検討しているとのこと。上下水道課が進めている土肥温泉のPFIコンセッション方式を参考にするなど、よい方法で管理できるよう検討していただきたい。また、持越財産区他6財産区の今後についても、支所で事務局を担い続けることを改善する方法を検討し、進めていただきたい。

なお、市民は最寄りの支所窓口を頼って来庁するので、業務範囲が広く大変だと思うが、市民サービス向上に努めていただきたい。

(4) 資産経営課

- ① 公共施設マネジメント業務は、3年目となり、今年度87施設269業務の委託をした。前年度より件数が減少しているが、再配置計画に基づく施設の解体によるものである。巡回による点検は、定期点検、ドローン点検を実施し、業者からの提案で開始した劣化診断は一級建築士により診断している。令和7年度以降の予定は、急激な物価や燃料の高騰により、委託費が年々上昇していることと、伊豆中学校が追加されるため、債務負担行為の増額を予定

している。また、施設保全の観点から、受注者には不具合の報告だけでなく、不具合を見つけたらその場で簡易修繕(有償)をトライアルで実施しており、市民サービスの向上や事務の効率化が図られているとのこと。

業者委託により、専門家による劣化診断をするなど、職員では見抜けなかった修繕箇所の発見などができているようなので、修繕をより計画的に行うなど、さらなる効果を期待します。

- ② 公共施設の解体・跡地活用検討事業については、伊豆市公共施設等総合管理計画で、今後40年間で伊豆市の公共施設の延べ床面積を40%～57%削減するとの目標を設定した。旧八岳小学校については、今年度中に解体・改修工事の入札を実施し、令和7年11月に完了予定とのこと。旧橋保育園跡地は法面对策の擁壁工事を行っており、今後県にレッドゾーンの解除を申請する予定で、今年度中にプロポーザル方式により購入者を募集するとのこと。旧さくらこども園は、本年度、園舎解体予定だったが、令和7年度以降に変更した。未利用市有地の公売は、修善寺地区の市有地は落札したが、土肥地区の土地は応募がなかった。引き続き公売を進める。また、8月には天城湯ケ島地区の2カ所の不動産鑑定を実施した。

計画に沿った公共施設の解体や跡地利用について、順次対応をお願いし、良い結果になることを期待しています。

- ③ 公用車両の管理は、現在資産経営課で35台、土肥支所8台、天城湯ケ島支所4台、中伊豆支所16台、各担当課34台、消防車両39台、合計101台をそれぞれ管理している。市バスは令和5年度末で廃車にし、本年度県外に売却した。資産経営課管理車両のうち、29年経過している軽自動車は廃車予定で、他2台は所管替えの予定であるとのこと。令和7年度以降の車両の調達は、購入からメンテナンスリース契約に変更することを検討しており、購入するより支出を平準化できることや、車検管理など職員の負担軽減にもつなげたいとのこと。

車検漏れの案件があったので、ヒューマンエラーは、しっかりチェックをするなどカバーできる体制を整えて、対応していただきたい。

公用車は、常に伊豆市の看板を背負っています。車検、点検、オイル交換、タイヤの管理等事故のないように適宜整備をお願いします。

- ④ 工事検査の状況では、契約検査室職員3人と副市長、各部局長の8人が検査員となっている。主に130万円を超える建設工事、50万円を超える業務委託、130万円を超える製造業務の検査を実施する。令和6年度上半期までの工事検査の実績件数は、中間、材料検査を含めると50件（うち工事完成検査30件）、年間検査件数は、本年6月の豪雨被害で今後工事や委託など大型事業の検査を控えているとのこと。評定点は市内業者もしっかりやっているとみられ、昨年度と比較し上がっている。最低点(65点)よりだいぶ高いので問題ないと判断します。引き続き職員や事業者の能力向上・品質向上など、適正な施行管理をお願いします。